

お知らせ
コーナー

平成20年度出土遺物巡回展

【房総発掘ものがたり】

来年度の巡回展は、次の6施設で開催します。今回は35年にわたる調査が終了した千葉市おゆみ野地区の遺跡群の調査成果を紹介します。

会期中には講演会や体験教室、解説会などの開催が予定されています。くわしくは当財団普及課までお問い合わせください。

平成20年7月12日(土)～平成20年9月15日(月)

① 千葉県立房総のむら
〒270-1506 印旛郡栄町電角寺1028
TEL. 0476-95-3333
URL. <http://www.chiba-muse.or.jp/MURA>

平成20年9月19日(金)～平成20年10月19日(日)

② 八千代市立郷土博物館
〒276-0028 八千代市村上1170-2
TEL. 047-484-9011
URL. <http://www.city.yachiyo.chiba.jp>

平成20年10月23日(木)～平成20年11月30日(日)

③ 芝山町立芝山古墳・はにわ博物館
〒289-1619 山武郡芝山町芝山438-1
TEL. 0479-77-1828
URL. <http://www.haniwakan.com>

平成20年12月4日(木)～平成21年1月4日(日)

④ 千葉県立関宿城博物館
〒270-0201 野田市関宿三軒家143-4
TEL. 04-7196-1400
URL. <http://www.chiba-muse.or.jp/SEKIYADO>

平成21年1月8日(木)～平成21年2月8日(日)

⑤ 市立市川考古博物館
〒272-0837 市川市堀之内2-26-1
TEL. 047-373-2202
URL. <http://www.city.ichikawa.chiba.jp/kokohaku>

平成21年2月13日(金)～平成21年3月1日(日)

⑥ 財団法人 千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センター
〒260-0814 千葉市中央区南生実町1210
TEL. 043-266-5433
URL. <http://www17.ocn.ne.jp/~maibun>

※「千葉県遺跡調査研究発表会」＝平成21年2月22日(日)
千葉市緑区緑取コミュニティセンターにて



県立安房博物館で 古代モノづくり工房 開催

平成19年度出土遺物巡回展にあわせ、12月15日(土)、県立安房博物館で「古代モノづくり工房」を開催しました。この日は約40名の方々が縄文時代の装身具を見本にしてオリジナルの鹿角ペンダントづくりに挑戦しました。

この工房は県内どこでも開催できますので、御希望される方はどうぞ気軽にお声をおかけください。



好評! 千葉県遺跡調査研究発表会

さる1月27日(日)、平成19年度千葉県遺跡調査研究発表会を県立中央博物館講堂で開催しました。今年度は出土遺物巡回展で展示された遺跡のうち、船橋市源七山遺跡のほか計7遺跡の発表が行われ、参加者は最後まで熱心に耳を傾けていました。

埋文
レポート

メジャーデビュー!! 人形塚古墳の はにわ 埴輪



イラスト提供＝熊本市立熊本博物館
原画＝岩本順子

昭和62(1987)年に発掘され、県内では遺跡発表会などでおなじみの「髭の貴公子」を中心とした人形塚古墳の埴輪が、「発掘された日本列島2007」に登場しました。埴輪たちは6月の江戸東京博物館を皮切りに、帯広・長野・岐阜・徳島・熊本・大阪を巡る全国ツアーを行いました。東京と岐阜ではエントランスにメイン展示され、帯広では記念撮影用の「顔はめ」として訪れた人が最初に出会うキャラクターになりました。



《江戸東京博物館での展示風景》

房総の

文化財

VOL. 44



ISSN 0919-0848
Hoso no bunkazai

平成20年2月28日 財団法人 千葉県教育振興財団
〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2
TEL 043-422-8811(代) FAX 043-422-8850
<http://www.echiba.org>

CONTENTS

◆発掘調査速報「松虫陣屋跡」・「羽戸遺跡」

◆～平成20年度出土遺物巡回展～「房総発掘ものがたり」

◆埋文・アラカルト「メジャーデビュー!!人形塚古墳の埴輪」

空から見た松虫陣屋跡
(林の中に城跡の土塁や空堀が続いています)

発掘調査 速報!!

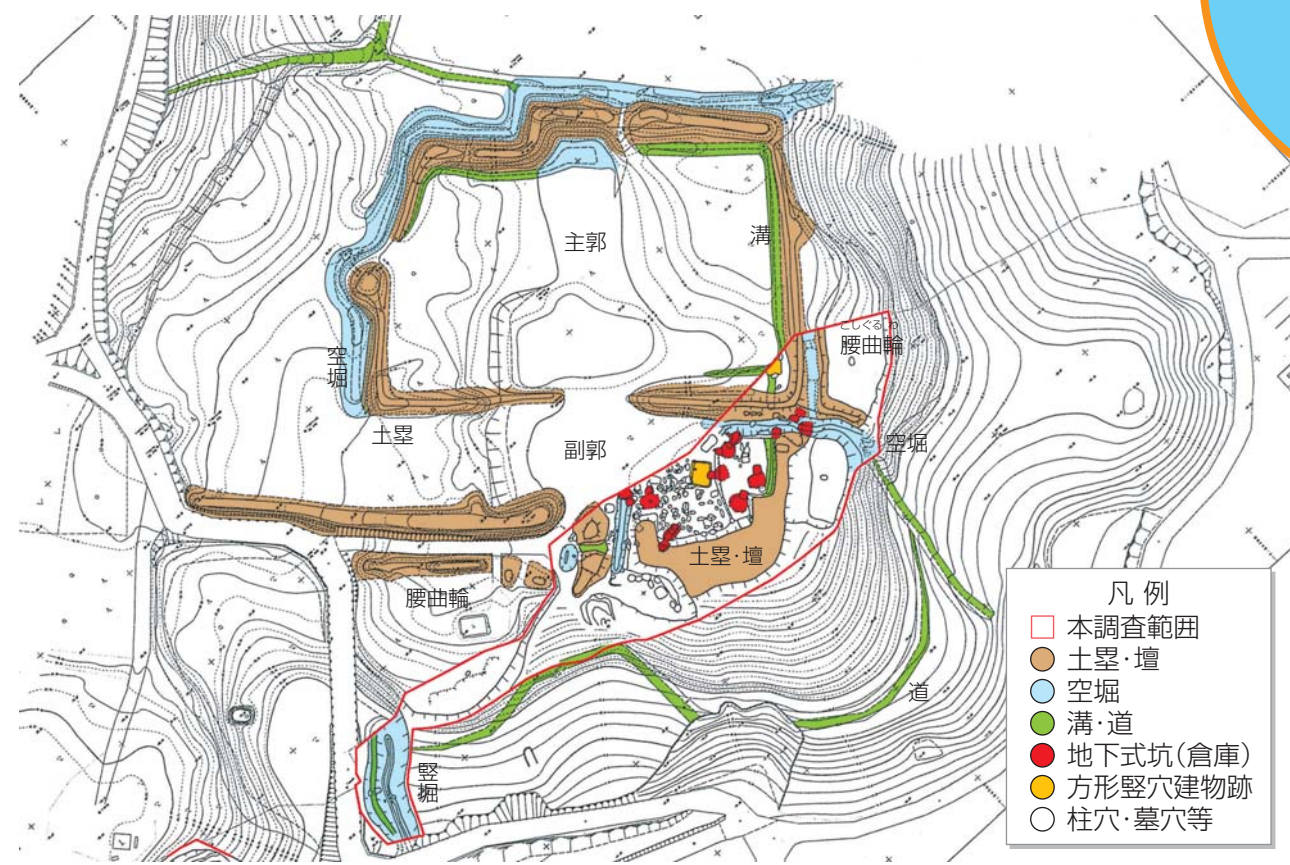
戦国時代の村から城へ

まつむしじんや 印旛村松虫陣屋跡

平成18年度に成田新高速鉄道と北千葉道路(国道464号)の建設に伴い南側の一部が発掘されました。江戸時代の地誌『利根川図志』のなかで、軍記物語を引用して茨城県の武将が北総の千葉氏の城々を攻めた時の「松虫の陣場」と紹介されていることから「陣屋」の名が付けられています。そのため、江戸時代の小大名の屋敷跡と誤解されがちですが、調査の結果、中世の城館跡であることがわかりました。

室町時代前半には、斜面を階段状に造成した土地に建物や地下式坑(地下蔵)を造った村が領主の館周辺にできます。戦国時代はじめ(15世紀後半)には、高い土塁・空堀・腰曲輪をめぐらす城に改造され16世紀前半まで使われました。その後、堀の埋め立てなどの城郭破壊があり、戦国末期(16世紀末)には新たな屋敷が造られたことが、出土した多くの陶磁器の碗・皿や土製の内耳鍋・播鉢などの年代からわかりました。

近くには、重要文化財の薬師如来像や県指定文化財の磬(読経で打ち鳴らす楽器)を所蔵する、古代から続く松虫寺があります。寺に関係の深い地侍がこの地に城館を築いたものの、戦国時代後半には千葉氏の居城本佐倉城(酒々井町)に移り、戦国の世が終って地元に戻ったか、新領主が屋敷を構えたことが想像されます。



松虫陣屋跡で見つかった土塁・空堀・屋敷跡



東金市羽戸遺跡

—縄文時代中期のムラ—

下の写真は貯蔵穴の中から見つかった縄文土器です。ドングリなどの食料をこの土器に入れて、穴の中に保管しておいたのでしょう。



平成19年11月3日に現地説明会を行った東金市羽戸遺跡の調査が終了しました。この遺跡では、以前の調査でも縄文時代中期の竪穴住居跡や貯蔵穴などが密集するムラが見つっています。今回はそのムラの約3分の1にあたる部分の調査で、竪穴住居跡や貯蔵穴などの土坑が見つかり、以前の調査と合わせると竪穴住居跡70軒前後、貯蔵穴などの土坑500基あまりの大規模なムラの跡が明らかになりました。数軒の住居が集まったムラが長い間営まれた結果としてこれだけの数になったのです。

月のクレーターのように見える右下の写真は、貯蔵穴などが何度も繰り返し掘られた結果です。竪穴住居跡に比べて貯蔵穴がはるかに多いのは、住居よりも短い期間で新しいものに掘り直されたからだと考えられます。